

許すこと

karinomaki

## 人を許す

---

私には、どうしても許せない人がいました。私の大切なものを全て捨ててしまった人です。もし、その大切なものがあれば、私の世界はもっと広がり、世界は夢のようだとずっと思っていました。しかし、そうではないことがわかりました。世界は、人を許すことで本当に広がるからです。

## 宝物

---

私の大切な宝物を奪った人を仮にAさんとします。

Aさんは私を傷つeketくてしかたなくて、それをしました。だから許せなかった。それは、私にとってかけがえのないものだったから。でも、私がAさんを憎み返すことは、私の宝物が、・・・私の心の中にしっかりした形で残ってくれた、大切な宝物が、許してくれませんでした。

宝物は言いました。「そんなマキは嫌いだよ。」

私の宝物は、私を越えていたのです。

## 先生

---

私は精神病で、大好きな先生がいます。先生は、人を憎む私を怒り、そして泣いてばかりいる私をいつもなだめてくれましたが、決して私を突き放すようなことはしませんでした。

それは、きっと、先生にとってはどんなひどい状態の患者さんも、自分を鍛えてくれる宝物だと思っているからではないですか？

先生の心の中まではわかりませんが、私も、自分の書いたものは、どんなひどい内容のものも、宝物だった。Aさんは、それを、気ちがいの書いたものと言って全て捨てたのです。

では、私も、こう思うことにしましょう。

宝物は、自分を鍛えてくれるもの。

Aさんも、憎い人も、私を鍛えてくれるもの。

かと言って、決してAさんを大事な宝物とは思えません。私は先生のような、人を許す度量がなく、書く人間だから。私にとって肝心なのは、宝物が伝えてくれることです。

## 天国への階段

---

私が何を書いてきたか・・・それは、天国への階段のつくり方でした。だから命よりも大事だった。それをAさんは全部捨てた。私は思いました。当然Aさんは地獄に落ちると。しかし、私の書いた階段は、しっかりと生きていたのです。なぜなら、天国から、Aさんを今は許せと言ってきたからです。Aさんが地獄に落ちるかどうかは私には言えません。しかし、私はAさんを許します。

だって、私の宝物は、死んでいなかった。天国にちゃんといてくれた。だから、天使の心を私にくれたのです。

## 許せない人

---

何も、全ての人を許す必要はありません。どうしても許せない人もそれはいるでしょう。しかし、私は、私をめちゃくちゃに傷つけた人でも、Aさんを許すべきと定められていたのです。

それは、私の宝物が決めました。

私は、ピンを買いました。それに、あとから買ったネックレスを接着剤でくっつけました。

まるで、蜘蛛の糸のようだと思いました。芥川龍之介の、「蜘蛛の糸」をご存知ですか？

お釈迦様が、蜘蛛を殺すのをとどまったという、一つだけの善行をしたある、カンダタという悪人に、地獄の底に蜘蛛の糸を垂らすという話です。この話は、この悪人が、他にも糸を見つけて上ってくる他の悪人を蹴散らしたとたん、糸が切れてしまうという、残酷なのですが、私の新しい宝物のピンは、Aさんを許すでしょうか。

少なくとも、Aさんを許すことは、宝物を捨てられた私の悲しい気持ちを救ってくれたのです。Aさんは私を憎んでいるかもしれませんが、それでも許すべきだったのは、Aさんが、「カンダタ」であるからかもしれません。

## 先生にあてて

---

私の先生は、手紙を嫌いました。先生がこれを読んで下さる確率は置いておいて、先生にあててここで書きます。

先生によっては、人を許せません。私は自分を守ることばかりです。でも、先生は精神科医だから、きっと人が大切なのですよね？

私も、先生のようにになりたい。

少しでもたくさんの人を許せる人間になりたい。

もう人を追い詰める文章は書きません。書いたとしても、それは誰かの生きる強さにつながるときだけにします。

私にとっては、Aさんに捨てられた宝物は、子供と同じでした。でも、「恋空」という漫画のヒロインは、自分を痛めつけた恋敵の幸せを祈っていました。私は、びっくりしました。私にはできないと思いました。でも、少しずつ、自分を変えていきます。

先生と出会えたことは、Aさんに痛めつけられて心を病んだためでもあるから……。

先生がここまで私を治して下さった今、私にできる恩返しは、もっといい人間に、人を許せる人間になることだけです。

## 救済予定説

---

宗教改革を行ったカルヴァンの唱えた、救済予定説について。これは、人間の救いは、その行いの善悪ではなく、あらかじめ神によって予定されているものである、という説ですが、ある意味あたっているのかもしれませんが。私も、いい人間ではなく、Aさんもそうかもしれない。憎みあつたかもしれない。しかし、中には、いいことをしさえすれば天国に行けると、計算づくの人もいますし、（こういう人は宗教に入っている人に多いです。）自分は悪い悪いと思い、苦しみながら生きている善人もいます。

大切なのは、どんな人とどう関わったかということだと思ふのです。カンダタが殺さなかった蜘蛛は、神様の化身だったのかもしれませんが。だからカンダタは、お釈迦さまのお慈悲を一度だけ受けられたのかもしれませんが。Aさんも、私の宝物の、天国への階段を、捨てることで天に昇らせたから、もしかしたら、地獄に落ちたとしてもいつの日か神様に蜘蛛の糸を垂らされるかもしれないのです。



## 宗教改革

---

ルターや、カルヴァンは、宗教改革を行いました。同じく宗教改革を行った「フス」は、有罪とされて、火あぶりにされました。ジャンヌ・ダルクもフランスの百年戦争を終わらせるべく戦いましたが、とらえられたイギリス軍に魔女認定され、火あぶりにされます。なぜ火あぶりかという、キリストのように復活しないためだそうです。最大の重罰ですね。しかし、私は思うのです。

最も偉大な人は、最も苦しい人生を選んで生まれてくると。

火あぶりになったフスも、ジャンヌも、神の化身だったわけですね。それなら、その肉体を奪った人々にはもう蜘蛛の糸すらないでしょう。救済予定説とはそういうものではないでしょうか。

## キリスト

---

キリストのように全ての人を許せば世の中が腐ってくる。しかし、人を糾弾し続ける私にとって、「先生」は厳しく優しい、キリストなどをはるかに越える人でした。先生のように、人に厳しいようであり、実は本当に人を許せる人が、本当の神なのかもしれません。私も先生に何回も怒られて今の私になりました。